

和歌山県

FULL職種（+ピア）の挑戦！！ ～あなたらしい暮らしの実現に向けて～

和歌山県では・・・

○県の自立支援協議会の人材育成部会の研修の一つとして、相談支援従事者の資質向上を図るための各種研修に力を入れている。

○例年、地域移行推進研修を開催する他、8圏域9事業所に地域移行促進員の配置を委託し、圏域の自立支援協議会と連動させながら、長期入院患者の退院意欲および周囲の退院支援意欲を喚起できるよう、支援体制整備に取り組んでいる。

○ピアサポーター推進員の配置を事業所に委託し、県内5カ所の事業所の協力の下、ピアサポーターの養成にも力を入れている。

1 県又は政令市の基礎情報



取組内容

【精神障害者の地域移行の取り組み】

- ・地域移行推進研修（2日間）年1回開催
- ・地域移行促進員の配置および支援体制整備
- ・ピアサポーター推進員の配置およびピアサポーター養成研修の実施、ピアサポーター活用

【人材育成の取り組み】

- ・相談支援従事者初任者研修、相談支援従事者現任研修、スーパーバイズ研修、ケアマネジメント研修など

基本情報

圏域数（H28年5月末）	8カ所
人口（H28年5月末）	957,267人
精神科病院の数（H28年5月末）	12病院
精神科病床数（H28年5月末）	2099床
入院精神障害者数 （H26年6月末）	3か月未満：268人（15.5%）
	3か月以上1年未満：207人（12%）
	1年以上：1253人（72.5%）
退院率（H26年6月末）	入院後3か月時点：60.8%
	入院後1年時点：89.8%
相談支援事業所数（H28年4月1日 現在）	一般相談事業所数：40
	特定相談事業所数：111
障害福祉サービスの利用状況 （H28年5月末）	地域移行支援サービス：16人
	地域定着支援サービス：70人
保健所（H28年5月末）	8カ所（中核市保健所1含む）
（自立支援）協議会 （H28年3月末）	（人材育成について議論）：人材育成部会 （活動頻度）：1回/年 相談支援の分科会は12回/年 その他分科会あり
	（精神障害者の地域移行について議論）：和歌山 県精神障害者地域移行関連事業連絡会議 ※自立支援協議会ではない（活動頻度）： 4回/年
精神保健福祉審議会（H28年3月 末）	1回/年、委員数15人

2 精神障害者の地域移行推進のための取組概要

●地域移行関連事業（和歌山県事業）

◇和歌山県長期入院精神障害者地域移行促進支援事業（H27年1月～）

- ・1年以上精神科病院に入院する長期入院患者を対象に、地域の相談支援事業所等のスタッフが病院と連携し、退院意欲の喚起から障害者総合支援法での地域移行につなげるまでの間の支援を行う。
また、周囲の退院支援意欲の促進も含め、地域の支援体制整備も併せて行う。
- ・8圏域9事業所に委託し、地域移行促進員を配置。
- ・各圏域の自立支援協議会において、医療機関、行政、事業所等が連携し、長期入院患者の退院意欲の喚起と周囲の退院支援意欲を促進する体制整備や関係機関の職員研修事業、一般住民を対象とした講演会等の啓発事業、ポスターやハンドブック、DVD等啓発物品や退院促進物品の作成等を行う。

◇ピアサポーター推進員の配置（H24年4月～）

- ・事業所に委託し、ピアサポーター養成研修の企画、ピアサポーター活用事業受託事業所との連携、ピアサポーターを交えた茶話会の開催、ピアサポーターミーティングの開催、ピアサポーターの心理的サポートなど。

◇ピアサポーター活用事業（H23年8月～）

- ・精神障害の体験を生かした地域生活に関する情報を、精神科病院に入院中の方や病院職員に対し広く提供することで、入院者の退院に対する動機付けとなるような活動を行えるように、ピアサポーターの活動費を予算化。
- ・平成28年4月現在、県内5事業所に委託し、対象者の地域移行訓練などに当たり、ピアとしての視点で同行支援が可能なピアサポーターを派遣できる体制を整えてもらっている。

（買い物など同行支援、地域移行促進員への同行、茶話会（職員向け含む）・地域移行caféなどへの参加、各種研修会・家族教室などで体験談やピアサポーター活動について報告、地域移行体験ツアーへの参加、他圏域との情報交換など）

2 精神障害者の地域移行推進のための取組概要

●地域移行関連事業連絡会議（年4回開催）

- ・関連事業の受託法人（相談支援事業所、医療機関）、保健所、圏域アドバイザーなどで構成

●精神障害者の地域移行推進研修の開催

- ・県内の各圏域において、医療機関と相談支援事業所、市町村、保健所等が連携し、障害者総合支援法に基づく支援等により、地域生活に移行できる入院中の精神障害者の退院の推進について、先進地域での取り組みを交え、県内の関係機関の職員に対し、個人が出来ることの気づきと体制整備の方法を学び、退院支援意欲を更に高めることを目的とし、例年開催している。

●各圏域の自立支援協議会での協議

- ・研修で作成したロードマップを、圏域の自立支援協議会にて共有してもらう。
（協議会メンバー：市町、保健所、医療機関、相談支援事業所、圏域アドバイザー、障害福祉サービス事業所など。※圏域ごとにコアメンバーは違っている）
- ・自立支援協議会と地域移行促進員、ピアサポーター推進員、ピアサポーターなどが連携しながら、医療と福祉の連携を強めていくことが目標。

3 精神障害者の地域移行推進のための取組経緯

- 精神障害者の地域移行推進研修の開催

H25年10月 2日開催（77名）

「精神保健福祉法と地域移行」「実践ガイドラインの活用について」「官民協働による実践報告」「機関別GW」「医療機関と連携した地域移行の取組み」「ピアサポーターを活用した地域移行の取組み」「医療機関と地域の連携に関するポイント」「圏域別GW」

H26年12月 1日開催（108名）

「精神保健福祉法改正と地域移行支援」「多職種で取り組む地域移行支援（演習）」「社会資源の作り方～千葉県 障害者グループホーム等支援事業～」「ロードマップのモニタリング」「これから1年のロードマップ作成」「今後の人材育成ビジョンと地域体制整備」

H27年11月 2日開催（109名）

「和歌山県の実地移行の現状と取組」「医療と福祉の連携～その人らしい生活の実現を目指して～」「県外実践から学ぶ地域移行の取組」「機関別GW」「ピアサポーターを活用した地域移行の取組」「地域移行におけるロードマップの必要性について」「圏域別GW①」「圏域別GW②」「各圏域の報告とまとめ」

（※共有した課題や圏域で作成したロードマップを研修後にも活用してもらいやすいように、各圏域の自立支援協議会コアメンバーにも参加してもらえよう呼びかけ。）

4 精神障害者の地域移行推進における強みと課題

・貴自治体における精神障害者の地域移行に関する特徴（強み）と課題を記載してください。

特徴（強み）

1. 各圏域ごとに、自立支援協議会と連携した取り組みができつつある
2. 医療と福祉の連携（多職種でかかわれる強み）
3. ピアサポーターの活動が徐々に広がりをみせている。

課題

1. 県全体の地域移行の課題について、FULL職種（+ピア）で共有、検討する場がない
2. 医療と福祉の連携（情報の共有が不足）
3. 地域の支援体制整備の強化（地域の資源、マンパワーなど含め）

5 精神障害者の地域移行推進のための本年度のスケジュール

- ・今年度の目標及び目標達成のためのスケジュール（いつ、だれが、何を、どのように実施するか）

今年度の目標

1. 研修企画段階から、看護師・医師などの多職種の意見も聞けるような仕組み作り
2. FULL職種で地域移行を考える
3. これまで各圏域で作成してきたロードマップをブラッシュアップ

次期(月)	実施内容(案)	担当
11月頃を目安	<ul style="list-style-type: none"> ・法改正から2年経って・・・ ・医療機関の看護師から見た地域移行 ・ピアサポーターの実践 ・事例検討 ・圏域別GW ※自立支援協議会の実践に活かせる工夫が必要か	障害福祉課PSW 研修企画委員(中央研修参加者を中心に構成) 他